

**「農林業の知と技の拠点」における
カリキュラム及び指導体制の
あり方について**

平成31年（2019年）3月

山口県

「農林業の知と技の拠点」におけるカリキュラム及び 指導体制のあり方について 目次

第1章 現状と課題

1	山口県農林業の現状と課題	2
2	社会情勢の変化とその影響	4
3	山口県農林業の方向性 ～未来を担う人材や中核経営体の確保～	4
4	農林業の担い手育成機関としての農林総合技術センター	5

第2章 農林業の知と技の拠点における人材育成

1	農林業の知と技の拠点において目指す人材像	6
2	カリキュラムの充実	7
3	指導体制の強化	7
4	推進スケジュール	7

第3章 カリキュラム充実の方向性と内容

1	地域農林業(中核経営体)の即戦力として活躍する人材の育成	8
2	先端技術を活用し、法人化を目指す人材の育成	10
3	農林業の技能を有し、中山間地域で活躍する人材の育成	11
4	時代の変化を先取りして地域を牽引する者	12

◆参考資料 1	現在のカリキュラム	13
---------	-----------	----

◆参考資料 2	農林業の知と技の拠点における新たな取組	17
---------	---------------------	----

1 山口県農林業の現状と課題

(1) 農林業の担い手の減少・高齢化

本県の農林業の就業人口は減少傾向にあり、2015年農林業センサスにおいては、農業就業人口の平均年齢が70.3歳と全国2番目に高齢となるなど、担い手の高齢化も進んでいます。そのため、県では、「担い手支援日本一」を掲げ、担い手の募集から技術研修、就業、定着までの一貫した支援に努めてきました。

今後も日本一の担い手支援策を継続し、就業先で即戦力となる人材の確保・育成の強化が必要です。

【関連指標】

農業就業人口：2015年(H27)28,306人※（10年で40%減）

林業就業者数：2015年(H27) 997人※※（5年で15%減）

農業就業人口の平均年齢：70.3歳※（全国2番目に高齢）

（出典：2015年農林業センサス※、平成27年国勢調査※※）

(2) 中核経営体の増加

新規就業者の雇用の受け皿ともなる、集落営農法人やその連合体、林業認定事業体の育成を進めてきた結果、集落営農法人等の法人数が増加しています。

今後は、これらの法人の経営多角化や生産規模の拡大など経営基盤の強化を図り、地域を牽引する「中核経営体」へと成長・発展させるとともに、そうした経営体の更なる省力化・生産性向上に向けた先端技術等の開発や普及が必要です。

【関連指標】

2017年(H29)：263の集落営農法人（2013年(H25)：205）

2017年(H29)：6の集落営農法人連合体（2013年(H25)：0）

2017年(H29)：19の林業認定事業体（2013年(H25)：17）

（出典：県農業振興課、森林企画課調べ）

(3) 他産業に比べ低い所得・生産性

農林水産業の労働時間当たりの所得は他産業に比べて低く、若者が農林業を職業として選択する上でのマイナス要因となっているという見方もあります。

今後は、生産性を飛躍的に向上させるための技術を積極的に導入するとともに、それらの技術を使いこなせる人材の育成や、経営スキルの向上も合わせて行っていく必要があります。

【関連指標】

農林水産業：1,420 円/時間

全産業平均：4,588 円/時間

(出典：主要産業の名目労働生産性 2016年(H28))

(4) 多様な気象条件を生かした生産

本県は三方を海に開かれ、瀬戸内沿岸や北浦の平坦部から中山間地域まで、豊かな自然環境や多様な地形・気象に支えられており、その多様な条件を生かした少量多品目生産が特徴です。

これまでの取組により、米では酒造好適米や加工用米、飼料用米などの新規需要米の需要に応じた作付が拡大しています。

施設野菜では、JA出資型法人や市などが新規就業者を計画的に受け入れ、いちご、トマトなどの産地を拡大する取組を進めています。

また、果樹では「ゆめほっぺ」などブランド商品の生産拡大への期待が高まっています。

畜産では養豚、養鶏で法人経営体を中心に飼養頭羽数が増加し、林業では、森林資源の充実に伴い、森林組合などを中心に、木材供給量が増加傾向にあります。

今後は、更なる生産者所得の向上に向けて、付加価値の高いオリジナル品種等の開発と普及に努めるとともに、県産農林産物の需要拡大に対応した、計画的かつ効率的な生産活動を展開できる技術開発が必要です。

【関連指標】

農業産出額[※]：2017年(H29) 676 億円 (近年は横ばい傾向)

主な内訳：米 236 億円、野菜 154 億円、果実 48 億円

花き 27 億円、鶏 105 億円、肉用牛 43 億円

県産木材供給量^{※※}：2017年(H29) 27.6 万³m

(出典：平成29年農業産出額及び生産農業所得統計[※]、森林企画課調べ^{※※})

2 社会情勢の変化とその影響

(1) 産地間競争の激化

T P P 1 1 や日 E U ・ E P A など国際貿易協定の締結により、農林水産物を含めた貿易自由化の進展が見込まれる中、安価な外国産農産物の輸入増加による国際競争の激化が見込まれています。

また、国内人口の減少や、国による米の生産調整の廃止、さらには人工林が本格的な利用期を迎えたこと等により、国内における産地間競争の激化も見込まれており、本県農林業の競争力強化は喫緊の課題です。

(2) 先端技術の急速な進展

I o T や A I 、ドローンといった先端技術は社会の中で急速に進展しており、農林業分野においても、新たな生産管理手法や、生産性向上につながる新技術へと広がりを見せ始めています。

こうした先端技術を、本県農林業の実状に合わせて迅速かつ的確に導入し、生産性等を向上させることが求められています。

3 山口県農林業の方向性 ～未来を担う人材や中核経営体の確保～

(1) 農業

集落営農法人やその連合体、一戸一法人、J A 出資型法人、農業参入企業などの中核経営体の設立や経営発展を促進し、中核経営体を中心に、地域の様々な農業者が一体となって生産や加工販売等の役割を果たすことにより、産地の維持・拡大を図ります。

また、新たな人材が中核経営体や産地に継続して就業し、定着できる環境整備を図ります。

(2) 林業

小規模・零細な民間素材生産事業体の協業化・法人化等を進め、中核経営体としての林業認定事業体への発展を図ります。

また、高性能林業機械の導入・活用を促進し、低コスト作業システムの確立を進めます。

4 農林業の担い手育成機関としての農林総合技術センター

(1) 担い手教育の取組状況

「担い手支援日本一」の推進機関として、農林業の新規就農・就業者を確保するとともに、集落営農法人や林業認定事業体といった中核経営体を育成するため、農業大学校での学生教育に加え、農林業の社会人研修を段階的、計画的に進めています。

ア) 山口県立農業大学校での担い手教育（学生部門）

作物栽培や牛の飼養について、学生自らが「課題（目標）」を立て、「計画」「実行」「評価」するプロジェクト学習法により、農業の実践力を養うことを中心として、農業後継者や地域農業の振興に指導的役割を果たす人材を育成しています。

イ) やまぐち就農支援塾での担い手教育（社会人 農業部門）

就農の動機付けとなる「短期入門研修」、休日を利用して基礎的な栽培管理・飼養技術を習得する「作目基礎研修」、新規就農に向けて実践的な栽培管理・飼養技術を習得する「担い手養成研修」を実施しています。

また、就農後のフォローアップ、農業法人のリーダーの資質向上や農業者の技能向上など、多くの人材の育成を支援しています。

ウ) 山口県林業指導センターでの担い手教育（社会人 林業部門）

森林組合など中核経営体における技能者の育成を中心に、林業の担い手を対象に、現場作業に不可欠な林業機械操作の資格取得と、森林整備に関する知識習得と技術の向上を図る研修を実施しています。

また、地域林業を牽引する指導者を対象に、多様なニーズに対応する専門的かつ高度な知識や技術を習得する研修を実施しています。

(2) 農林業の担い手育成に係る今後の課題

担い手の減少・高齢化や産地間競争の激化、先端技術の急速な進展などの状況を踏まえ、今後の担い手には、スマート農林業、6次産業化、GAP、流通・販売、コミュニケーション能力などの幅広い知識や技術等の修得が求められています。

従来 of 農林業の実践に必須となる基本的な知識や技能等を修得する教育をベースに、カリキュラムや指導体制をより一層強化し、求められる人材を育成することが喫緊の課題となっています。

本県では、農林業の競争力を強化するため「担い手支援日本一」を掲げ、新規就業者の確保・育成に向けた施策を強力に推進してきましたが、依然として担い手の減少・高齢化は全国を上回るペースで進行しており、地域の実情に即して、先端技術を自らの経営に生かし、高い収益を生み出す人材を早急に育成することが喫緊の課題となっています。

このため、施策推進の指針である「やまぐち維新プラン」の重点施策に農業大学校と農業試験場等を統合した「農林業の知と技の拠点」の形成を位置づけ、先端技術の開発と、高度な技術を持つ即戦力人材の育成に一体的に取り組む体制を構築することとしました。

このうち、新たな拠点における教育の方向性の検討に当たっては、先端技術の研究者やスマート農業を実践する法人経営者など県内外の有識者で構成する「カリキュラム検討委員会」を設置し、農大生や社会人研修生、県内農林業者との意見も交えながら議論を深め、今後育成を目指すべき人材像やその実現に必要なカリキュラム、指導体制のあり方等を明らかにしました。

1 農林業の知と技の拠点において目指す人材像

「カリキュラム検討委員会」での議論や県内農林業者の意見、拠点形成基本計画の内容を踏まえ、「農林業の知と技の拠点」においては、以下の4つの人材像の具現化を目指します。

◆目指す4つの人材像

- I 地域農林業（中核経営体）の即戦力として活躍する者
- II 先端技術を活用し、法人化を目指す者
- III 農林業の技能を有し、中山間地域で活躍する者
- IV 時代の変化を先取りして地域を牽引する者

2 カリキュラムの充実

現在、農業大学校や林業指導センターで実施されているカリキュラムの内容を点検し、充実が必要と考えられる内容を整理しました。

具体的には、社会情勢の変化や新たな拠点形成の目的等を踏まえ、農林業の実践に必須となる、基礎的な知識や技能の着実な修得を進めるとともに、地域に根差して活躍できる4つの人材像の具現化に向けて、新たな講座を設けるなど、カリキュラムを充実します。

3 指導体制の強化

新拠点の整備に合わせ、企業や県内農林業者との連携を深め、先端技術の活用等に、一層実践的な教育がなされるよう指導体制を強化します。

具体的には、企業・大学等との連携強化により、研究員を含めた最先端の知識や技術を有する人材を講師として活用するとともに、試験研究のフィールドやオープンラボを実習の場として活用します。

また、長年にわたり培われた技術や経験を確実に伝授できるよう、県内農林業者との連携を強化します。

さらに、学生や研修生の成長を継続的に支援できるよう、拠点のスタッフと各地の農林業者等によるサポート体制を強化します。

4 推進スケジュール

新拠点の供用開始に向けて、関係する条例や規則の改正等も含め、教育・研修内容を順次充実させていきます。

とりわけ、担い手の減少・高齢化や産地間競争の激化などの状況を踏まえると、中核経営体や産地から求められている「先端技術を駆使でき、経営感覚に優れた人材」の育成が急務であることから、「スマート農林業」や「6次産業化」などの講座については、統合前であっても、外部講師を招聘するなどの工夫により、2019年度から講義・実習内容に反映します。

1 地域農林業(中核経営体)の即戦力として活躍する人材の育成

新規就業者の受け皿となって地域を牽引する中核経営体における即戦力となる人材を育成するため、以下の教育内容の充実を図ります。

(1) カリキュラム充実の方向性

〔これまでの取組の拡充〕

- ・ インターンシップや農林業の作業実習の強化
- ・ 高性能農業機械や高性能林業機械等の資格・技術取得研修の充実
- ・ 6次産業化やGAPに関する講義・実習の充実
- ・ 販売戦略から経理までの一体的な販売実習の強化

〔新たな取組〕

- ・ 県内拠点（山口大学農学部等）との連携の強化

(2) カリキュラム充実の内容

方向性	新規・拡充内容	2019から実施
インターンシップや農林業の作業実習の強化	拡 インターンシップの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣先農業法人の拡充 ・ 派遣プログラムの充実 ・ 派遣時期の見直し 	◎
	新 大区画ほ場でのスマート農業実習	
	拡 農林業女子を対象とした農林業機械の操作研修	◎
	新 農業と林業を組み合わせた周年作業実習	

方向性	新規・拡充内容	2019から 実施
高性能農業機械や高性能 林業機械等の資格・技術 取得研修の充実	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div data-bbox="655 253 1182 293">[拡]ドローン等、取得資格の拡大</div> <div data-bbox="655 322 1257 362">[新]大区画ほ場でのスマート農業実習</div> <div data-bbox="655 392 1297 472">[拡]農林業女子を対象とした農林業機械 の操作研修</div> </div>	◎
6次産業化やGAPに関 する講義・実習の充実	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div data-bbox="655 490 1283 571">[拡]外部講師の招聘 (6次産業化・農商工連携、GAP等)</div> <div data-bbox="655 600 1219 640">[新]商品開発(農大ブランド)実習</div> </div>	◎
販売戦略から経理までの 一体的な販売実習の強化	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div data-bbox="655 658 1193 739">[拡]外部講師の招聘 (販売戦略、マーケティング等)</div> <div data-bbox="655 792 1297 873">[新]販売・経理に関するプランニング実 習</div> </div>	◎
県内拠点(山口大学農学 部等)との連携の強化	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div data-bbox="655 898 959 938">[新]大学教員の招聘</div> </div>	

2 先端技術を活用し、法人化を目指す人材の育成

技術革新等の急速な発展に対応し、先端技術を駆使できる人材を育成するため、以下の教育内容の充実を図ります。

(1) カリキュラム充実の方向性

〔これまでの取組の拡充〕

- ・試験研究成果を取り入れた農林業の作業実習や技術研修の充実
- ・スマート農林業に関する講義・実習の充実

〔新たな取組〕

- ・研究員による講義の導入
- ・民間企業や大学との連携による流通や通信技術、A Iに関する基礎講義の導入

(2) カリキュラム充実の内容

方向性	新規・拡充内容	2019から 実施
試験研究成果を取り入れた農林業の作業実習や技術研修の充実	拡研究員による新品種の栽培方法・新技術の指導	
スマート農林業に関する講義・実習の充実	新大区画ほ場でのスマート農業実習 新外部講師の招聘 (現場データの収集、活用に関する講義)	◎
研究員による講義の導入	拡研究員による新品種の栽培方法・新技術の講義	◎
民間企業や大学との連携による流通や通信技術、A Iに関する基礎講義の導入	拡外部講師の招聘 (マーケティング、先端技術等)	◎

3 農林業の技能を有し、中山間地域で活躍する人材の育成

特に中山間地域において活躍できる人材を育成するため、以下の教育内容の充実を図ります。

(1) カリキュラム充実の方向性

〔これまでの取組の拡充〕

- ・短期研修（農家生活体験）の充実

〔新たな取組〕

- ・出身地や農村で開催される行事への積極的な参加誘導
- ・農業と林業を組み合わせた複合経営研修の導入

(2) カリキュラム充実の内容

方向性	新規・拡充内容	2019から 実施
短期研修（農家生活体験）の充実	拡農家生活体験の充実 ・派遣先の拡大 ・派遣プログラムの充実 ・派遣時期の見直し	◎
出身地や農村で開催される行事への積極的な参加誘導	新経営プロジェクトへの地域課題解決手法の導入	◎
農業と林業を組み合わせた複合経営研修の導入	新農業と林業との連携強化 ・農業＋林業の技術修得 ・農業と林業を組み合わせた周年作業実習 ・農業者と林業者との合同研修（特用林産物の活用等）	

4 時代の変化を先取りして地域を牽引する人材の育成

時代の変化を先取りして、地域農業の即戦力として、また、幅広い分野に貢献し、地域を牽引する人材を育成するため、以下の教育内容の充実を図ります。

(1) カリキュラム充実の方向性

〔これまでの取組の拡充〕

- ・他業種との交流活動の強化
- ・コミュニケーション能力やリーダーシップの向上につながる講義・演習の充実

〔新たな取組〕

- ・専攻以外の講義への参加誘導
- ・ビジネスマナー研修や接遇研修の導入

(2) カリキュラム充実の内容

方向性	新規・拡充内容	2019から実施
他業種との交流活動の強化	拡外部講師の招聘 (ファシリテーション、農福連携等)	◎
コミュニケーション能力やリーダーシップの向上につながる講義・演習の充実	拡外部講師の招聘 (コミュニケーション、リーダーシップ、地域プロデュース等)	◎
専攻以外の講義への参加誘導	拡就職先や進路に応じた授業科目や研修の選択肢拡大	
ビジネスマナー研修や接遇研修の導入	新専門事業者によるビジネスマナー研修	

1 山口県立農業大学校のカリキュラム（学生部門）

授業科目		時間数	単位数
教養科目	社会活動とコミュニケーション演習	40	2
	ワークショップ概論	15	1
	国際交流・地域交流概論	15	1
	情報処理演習	20	1
	特別講義	30	2
	小計	120	7
専門科目	農業経営（基礎）	15	1
	農業経営（応用）	15	1
	農業政策概論	30	2
	農業簿記	30	2
	農業機械演習	100	5
	G A P 概論	15	1
	農畜産物流通概論	15	1
	農畜産物利用演習	20	1
	作物概論	30	2
	作物栽培演習	20	1
	園芸概論	15	1
	畜産概論	15	1
	土壌肥料概論	15	1
	農業気象	15	1
	スマート農業（選択）	20	1
	6次化（選択）		
	小計	370	22
専門科目 園芸学科	営農計画	15	1
	病虫害防除概論	15	1
	植物育種	30	2
	植物生理	15	1
	施設園芸	30	2
	栽培各論	60	4
	流通販売演習	80	4
	G A P 演習	20	1
	専攻栽培演習	240	12
	生産プロジェクト実習	750	25
	経営プロジェクト実習・卒業論文	720	24
	農家体験研修	30	1
	先進農家等派遣研修	150	5
	小計	2,155	83
専門科目 畜産学科	営農計画	15	1
	家畜栄養	15	1
	家畜育種	15	1
	G A P 演習	20	1
	環境保全・ふん尿処理	15	1
	家畜解剖・疾病	15	1
	家畜生理・繁殖（講義4、実習3）	120	7
	飼料作物・草地管理（講義1、演習3）	75	4
	畜産飼養管理（講義1、演習10）	215	11
	生産プロジェクト実習	750	25
	経営プロジェクト実習・卒業論文	720	24
	農家体験研修	30	1
	先進農家等派遣研修	150	5
	小計	2,155	83
合計	2,645	112	

2 やまぐち就農支援塾のカリキュラム等（社会人 農業部門）

	研修名称	研修概要	対象者
Ⅰ 就農支援	1 担い手養成研修	<ul style="list-style-type: none"> ・就農や農業法人への就業を目指す者 ・農業大学校での一年間フルタイム研修 	一般募集（農業で生計を立てる予定の者）
	2 短期入門研修	<ul style="list-style-type: none"> ・就農や農業法人への就業を検討中の者 ・3連休を利用した研修（年間3回程度開催） 	一般募集（県内在住の者）
	3 やまぐち就農ゆめツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・就農や農業法人への就業を検討中の者 ・3連休を利用した研修（年間3回程度開催） 	一般募集（県外在住の者）
	4 作目基礎研修	<ul style="list-style-type: none"> ・就農や農業法人への就業、自ら生産した農産物の出荷や販売を目指す者 ・週末の日曜日を利用した研修 	一般募集
	5 担い手集合研修	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手養成研修生（農大・現地）の就農・定着を支援するため、農業経営に必要な知識の習得を支援 	就農前農大研修受講者 就農前現地研修者
Ⅱ 課題解決	6 資格取得研修	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営に必要な資格取得を支援する研修（14種※次頁参照） 	一般募集
	7 大型農業機械メンテナンス研修	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産法人のオペレーター等 ・大型農機の操作やメンテナンス方法等の習得 	一般募集
	8 女性のための農業機械操作研修	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産法人の女性オペレーター等 ・刈払機、乗用トラクター、管理機等の取扱い 	一般募集
	9 パイプハウス建設実践技術研修	<ul style="list-style-type: none"> ・自家施工・修理、中古部材の活用など、経営コスト削減のためのノウハウ修得支援 	希望者
Ⅲ フォローアップ	10 やまぐち尊農塾	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲ある法人経営者等に対し、経営マネジメントやマーケティングの研修等を通じ、経営マインドに優れた次世代農業経営者を育成 	一般募集 （農水事務所経由）
	11 アグリビジネス研修	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農・就業者が今後の経営発展や意欲醸成に必要な先進事例等を聴講（集合研修内で公開講座として開催） 	定着給付金受給者 給付金（開始型）受給者

3 農業大学校・やまぐち就農支援塾で取得可能な資格・技能講習等

資格・技能講習一覧	研修概要	対象者
大型特殊自動車免許（農耕車限定）※	トラクタ等農業用特殊自動車の運転免許取得	法人オペレーター、認定農業者、新規就農者、農大学生・研修生等
けん引免許（農耕車限定）※	農業用けん引免許取得	
刈払機取扱作業安全衛生教育※	刈払機の使用技術取得	
玉掛け技能講習※	玉掛け資格取得	
小型移動式クレーン運転技能講習※	トラッククレーン等の運転資格取得	
フォークリフト運転技能講習※	フォークリフト（1t以上）の運転資格取得	
小型車両系建設機械特別教育※（整地等）	バックホウ（3t未満）等の運転資格取得	
アーク溶接特別教育※	アーク溶接技術取得及び資格取得	
高所作業車特別教育※	※H28まで実施（H29以降は実績なし）	
J-GAP指導員基礎研修※	J-GAP指導員資格の取得	農大学生・研修生
狩猟免許※	鳥獣に関する知識の取得及び資格取得	農大学生・研修生、一般県民
伐木作業（チェーンソー）取扱特別教育※	チェーンソーの使用技術取得	法人オペレーター、認定農業者、新規就農者、農大学生・研修生等
毒物劇物取扱者※	農薬等の毒劇物取扱者資格の取得	農大学生・研修生、一般県民
危険物取扱者（乙4類）	ガソリン等の燃料取扱者資格の取得	
家畜人工授精師	家畜人工授精師資格の取得	農大学生・研修生、一般県民
家畜商免許	家畜商免許の取得	農大学生・研修生
2級認定牛削蹄師	2級認定牛削蹄師資格の取得	農大学生・研修生
農業簿記検定	農業簿記検定の受験	農大学生・研修生、一般県民
日本農業技術検定	日本農業技術検定の受験	農大学生・研修生、一般県民

注）※は資格取得研修（14種）の項目

4 山口県林業指導センターのカリキュラム（社会人 林業部門）

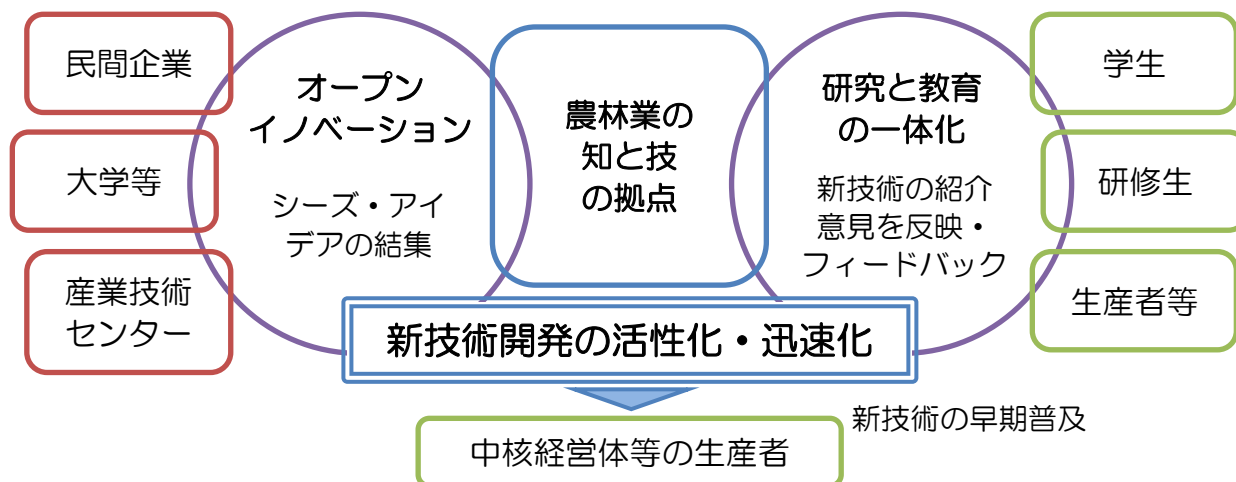
研修名称		研修概要	対象者
一 林業担 い手 研修	1 高度林業作業士育成研修	現場の効率的な運営や統括管理に必要な知識・技術の習得	就業後5年以上の経験を有する就業者
	1) 車両系建設機械(整地・運搬・積込用及び掘削用)運転技能講習	バックホウ等の運転資格取得	
	2) 車両系建設機械(解体用)運転技能講習	ブレーカ等の運転資格取得	
	3) 玉掛け技能講習	木材の荷掛け等(玉掛け)の資格取得	
	4) 小型移動式クレーン運転技能講習	トラッククレーン等の運転資格取得	
	5) はい作業主任者技能講習	木材(丸太等)集積作業現場監督資格取得	
	6) 不整地運搬車運転技能講習	不整地運搬車の運転資格取得	
	7) 機械集材装置の運転の業務に係る特別教育	機械集材装置の運転資格取得	
	8) 走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	走行集材機械の運転資格取得	
	9) 簡易架線集材装置等の運転の業務に係る特別教育	簡易架線集材装置等の運転資格取得	
	10) 伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	伐木等機械の運転資格取得	
	11) 造林作業の作業指揮者等安全衛生教育	造林作業を指揮する者への安全衛生教育	
	12) 集合研修	現場作業・安全衛生管理及び業務効率化の推進等指導的立場における知識・技術の習得	
	2 林業作業就業前研修(受託)	新規林業参入希望者への機械器具の取扱い、安全衛生教育	
1) 伐木等の業務に係る特別教育	チェーンソー使用の資格取得及び伐木技術		
2) 刈払機作業に係る安全衛生教育	刈払機使用の刈払技術の習得		
3) 小型車両系建設機械(掘削用)の運転の業務に係る特別教育	バックホウ(3t未満)等の運転資格取得	就業後3年未満の新規就業者	
3 「緑の雇用」現場技能者育成研修(受託)	新規林業就業者等への各種技術の習得		
4 不整地運搬車運転技能講習	不整地運搬車の運転資格取得	満18歳以上の林業従事者等	
5 機械集材装置の運転の業務に係る特別教育	機械集材装置の運転資格取得	満18歳以上の林業従事者等	
6 伐木等の業務に係る特別教育	チェーンソー使用の資格取得及び伐木技術	満18歳以上の林業従事者等	
7 刈払機作業に係る安全衛生教育	刈払機使用の刈払技術の習得	満18歳以上の林業従事者等	
8 伐木等の従事者安全衛生教育(共催)	伐木等の業務従事者への安全衛生教育	伐木業務従事者	
9 林業作業体験研修(林業高校生徒)	伐木技術及び刈払技術の習得	林業高校生徒	
10 技能者短期育成	高性能林業機械の基本操作の習得	林業認定事業体	
指 導 者 森 林 ・ 林 業 研 修	1 県・市町職員等 「伐木」	チェーンソー使用の資格取得及び伐木技術	県・市町職員等
	2 県・市町職員等 「刈払機」	刈払機使用の刈払技術の習得	県・市町職員等
	3 県林業技術職員等 「指導能力向上」	機械集材装置に関する知識・技能の習得	県林業技術職員

※「農林業の知と技の拠点」形成基本計画（平成30年12月策定）の抜粋

1 オープンイノベーションと研究・教育の一体化による新技術開発の活性化

新たな拠点では、瀬戸内産業集積地域と近接し、高速道路にも近い好立地を生かして、県内外の企業や大学などと積極的に連携し、相互の研究シーズやアイデアを結集した新技術開発（オープンイノベーション）を推進します。

また、将来の担い手である農業大学校や林業指導センターの学生や研修生が、最新の研究開発現場に触れる環境ができるため、実証の中で研究者が担い手候補等の意見を直接聴き、迅速に技術改良にフィードバックするなど、研究と教育の一体化によるメリットを生かして「新技術を創出する力」を高めていきます。



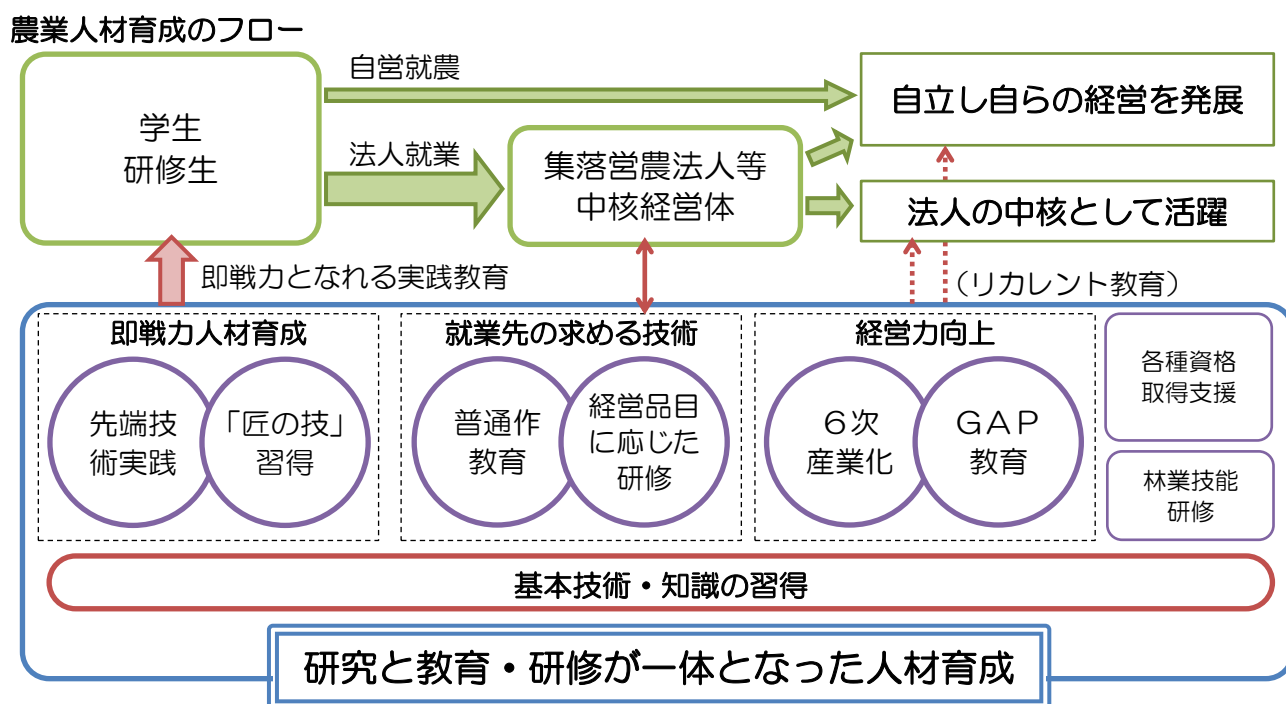
■具体的な取組

○本県の特性に応じた先端技術を活用した省力化・低コスト技術の開発

瀬戸内沿岸から日本海沿岸まで、気象や地形の変化に富む本県の特性に対応し、瀬戸内沿岸部を中心とした大規模経営や、中山間地域等の条件不利地に向けた技術開発、新規就業者の参入を容易にできる技術など、様々な条件に応じた、先端技術の研究開発と普及に取り組みます。

2 教育の高度化による創造力と実践力豊かな人材の育成

研究機関と教育・研修機関の統合により生まれるメリットを生かし、スマート農機等先端技術教育の環境整備や、研究員・民間企業経営者等による新技術活用法や経営ノウハウの実践学修を通じ、創造力と実践力豊かな人材を育成します。



■具体的な取組

○先端技術を実践する即戦力人材の育成

スマート農機等やICTシステムなどの先端技術について、現場への普及定着を図るための操作法の基礎から応用までの実習はもとより、導入メリットの判断など、経営における活用法の講義などにより、時代に先駆けて先端技術を駆使し、自らの経営に生かすことのできる即戦力人材を育成します。

○経営感覚に優れた人材の育成

6次産業化を見据えた農林産物の加工・販売等の実習や、GAP（生産工程管理）教育を充実し、生産者の収益向上や、経営管理技術の向上につながる教育を充実します。

また、「やまぐち尊農塾」をはじめとした経営力向上に向けた研修など、就農後のリカレント教育により、地域の中核となる経営者へのステップアップを支援します。

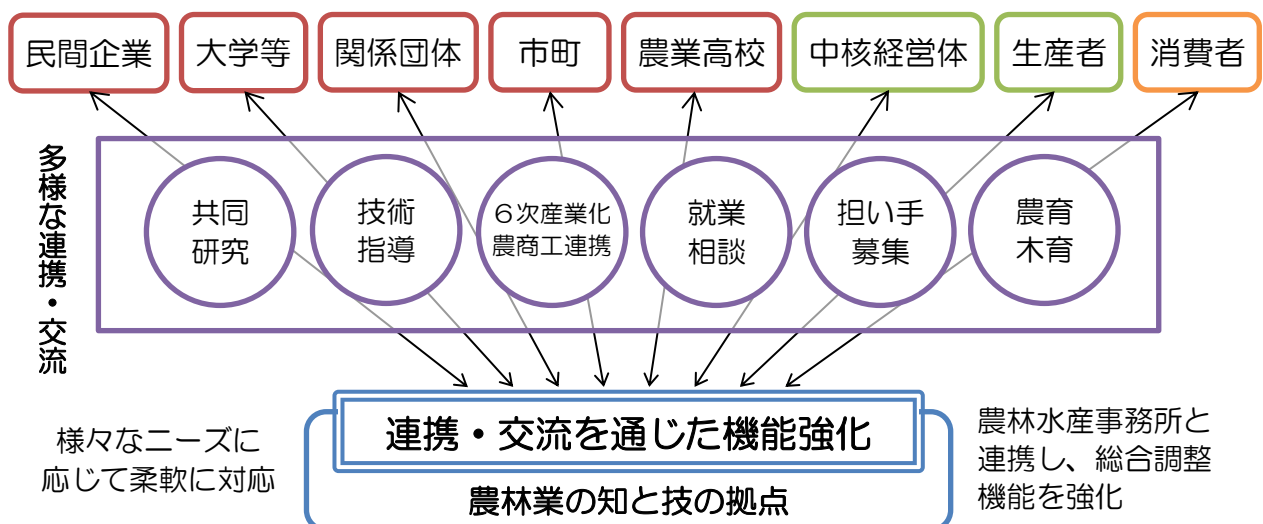
さらに、地域林業を主導する林業認定事業者等の指導者を対象に、山林所有者への利益還元につながる、林業経営管理技術や、地域林業マネジメント研修を充実します。

○現場のニーズに応じたスキルを持つ多様な人材の供給

集落営農法人等の生産の基本となる水稻、麦、大豆など、経営品目に柔軟に対応した研修内容の設定、木材生産に必要な資格や技能の習得など、現場の様々なニーズに対応し、多様な人材を養成します。

3 大学、企業、生産者、県民等との新しい連携・交流

拠点の形成を契機に、農林総合技術センター各組織間の連携はもとより、積極的に民間企業や大学、関係団体、生産者等との連携や交流を深め、県民にとって開かれた「農林業の知と技の拠点」となるよう、調整機能の強化を図ります。



■具体的な取組

○農林業の総合相談・情報発信機能の強化

農業試験場の企画情報室と、農業大学の就農・技術支援室の機能を統合し、生産現場への普及を担う農林水産事務所（農業部・森林部）との連携を密にして、農林業の相談と、情報発信の総合調整機能を強化します。

○産学公連携の更なる推進

民間企業や大学、J A、市町等との連携を一層促進し、研究・研修両面の機能充実を図ります。

○生産者・消費者等との連携・交流の場の創設

生産者や消費者など、広く県民と交流する場を設け、農林業に対する理解促進を図るとともに、様々なニーズを収集しながら、今後の農林業振興につなげていきます。

また、6次産業化や農商工連携による新商品の開発に向けた食品加工実験などが行えるオープンラボ施設の設置などにより、広く県民に開かれた連携・交流拠点とします。